

# 美術科学習指導案

指導者 熊野町立熊野東中学校 教諭 川崎 飛鳥

- 1 日時 平成 22 年 12 月
- 2 学年 第 3 学年 154 名
- 3 場所 第 2 美術室
- 4 題材名 「発見！日本の美」
- 5 題材設定の理由

- 本題材は、中学校学習指導要領美術（平成20年）の第2学年及び第3学年「B鑑賞」（1）の事項ウ「日本の美術の概括的な変遷や作品の特質を調べたり、それらの作品を鑑賞したりして、日本の美術や伝統と文化に対する理解と愛情を深める」を受けて設定した。本題材は、日本独自の文化に触れ、そのよさや表現の特質を味わうことによって、日本の美術文化に対する理解と愛情を深めることをねらいとする。授業では、日本の美術を代表する尾形光琳の「紅白梅図屏風」の鑑賞を行う。日本画独特の表現の特徴を基に、日本の美術文化の素晴らしさに感動と好感の気持ちをもたせることができる題材である。
- 本学年の生徒は、明るく何事に対しても落ち着いて学習に臨むことができる。いろいろな制作に対しても興味をもち、熱心に取り組むことができている。美術科で行っているアンケートでは、9割を超える生徒が「美術の授業が好きである」と回答しており、8割を超える生徒が、鑑賞に対して肯定的な評価をしている。しかし、4割の生徒は、日本の美術を鑑賞することに対して興味をもてていないという実態がある。この原因は、日本の美術の鑑賞において、時代的な流れに沿って、作品についての知識を理解させることはある程度できていたが、形や色彩などの作品を見る視点を明確にしておらず、日本独自の文化のよさを味わわせていなかったためと考えられる。
- そこで、指導に当たっては、作品の形や色彩など造形的な要素に着目させる活動を取り入れ、日本の美術文化のよさを味わわせるようにする。具体的には、まず、日本独自の文化に気付かせる活動として、アートカードを使う。日本や諸外国の美術作品の造形的な要素に興味をもたせることで日本と諸外国の共通点と相違点に気付かせるとともに、日本の美術作品の特徴をとらえさせる。次に、「紅白梅図屏風」の造形的な要素に着目させ、光琳独特の水の流れや梅の木の表現方法、背景の金地や対称的な画面構成などを鑑賞させる。そうすることで、日本の美術文化に対する理解と愛情を深めることができると考える。

## 6 題材の目標

形や色彩、材質感など造形的な要素に着目して、日本の美術の多様な表現方法や表現形式を味わい、それらのよさを理解し、愛情を深めることができる。

## 7 題材の評価規準

| 美術の学習への関心・意欲・態度                  | 鑑賞の能力                                   |
|----------------------------------|---|
| 日本の美術に関心をもち、意欲的に鑑賞活動に取り組もうとしている。 | 造形的な要素に着目して、日本の美術文化の独自のよさを味わい、愛着をもっている。 |

## 8 指導と評価の計画

| 次       | 時間 | 学 習 内 容                         | 評 価 の 観 点 |   |   |   | 評 価 規 準   | 評 価 方 法         |
|---------|----|---------------------------------|-----------|---|---|---|---|-----------------|
|         |    |                                 | 関         | 発 | 技 | 鑑 |   |                 |
| 第一<br>次 | 1  | ○美術作品を鑑賞して造形的な要素に関心をもつ。         | ○         |   |   |   | ・美術作品を鑑賞し、様々な表現形式に関心をもっている。                                       | 生徒の発言<br>ワークシート |
| 第二<br>次 | 2  | ○日本の美術作品を造形的な要素に着目して鑑賞し、よさを味わう。 |           |   |   | ○ | ・造形的な要素に着目して、日本の美術文化の独自性に気付いている。<br>・日本の美術文化に対して、よきものとして愛着をもっている。 | 生徒の発言<br>ワークシート |

9 本時の展開

【第一次】

- (1) 本時の目標：キュレーターになりきって、作品のよさを味わおう
- (2) 観点別評価規準：美術作品を鑑賞し、様々な表現形式に関心をもっている。(関)
- (3) 準備物 生徒：美術セット、筆記用具  
教師：アートカード、ワークシート
- (4) 学習の展開

|                       | 学 習 活 動   | 指導上の留意事項  | 評価規準<br>(評価方法)   |
|-----------------------|---|---|--|
| 導<br>入<br>5<br>分      | (1) 本時の目標・内容を<br>知る。  | ①本時の目標を提示する。<br>・キュレーター(学芸員)になりきって本時の授業に参加することを伝える。<br>「キュレーターになりきって、作品のよさを味わおう。」<br><br>・キュレーターの説明を行う。(美術資料 p 153, 県美学芸員の藤崎さんのことを思い出させる。)  |  |
| 展<br>開<br>40<br>分     | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">                     いろいろな作品を見て似ているところや違うところを見付けよう。                 </div> (2) アートゲーム<br>を行う。<br>○視点や根拠を考えながら作品を分類する。<br><br>○見付けた根拠を基にキュレーターになりきって発表する。 | ②4人班でアートカードを使い、マッチングゲームを行う。<br>○生徒がそれぞれ考えたルールでアートカードを分けさせ、どのような視点で分けたか互いに当てさせることで作品の類似点や相違点に気付かせるようにする。<br>(ex: 日本と他の国, 知っている絵と知らない絵, など)<br><b>【係分担】</b><br>お世話係…カードとワークを準備, 司会係…進行, 記録係…どのような視点で分けたか記録, 発表係…後で分けた視点を発表<br>○どのようなルール(視点)で分けたか班ごとに発表させる。(班→全体)<br>○日本の絵画作品だけを選び出し、その独自性を特徴付ける根拠を考えさせる。<br>造形的な要素に着目させながら話し合わせ、発表させる。<br>○好きな作品を1点選んで題名を考えさせ、キュレーターになりきって説明させる。<br>・何を読み取ったか、なぜその題名にしたかの理由を簡潔に発表させる(何に着目して題名をつけたか等)。 | 美術作品を鑑賞し、様々な表現形式に関心をもっている。(関)<br><b>【生徒の発言】</b><br><b>【ワークシート】</b> |
| ま<br>と<br>め<br>5<br>分 | (3) 本時のまとめを自己評価カードに記入する。  | ③今日の授業を振り返り自己評価カードに記入する。<br>・次時の予告を行う。  |  |

【第二次①】

- (1) 本時の目標：視点をもって日本の美術作品を味わおう
- (2) 観点別評価規準：造形的な要素に着目して、日本の美術文化の独自性を感じ取っている。  
(鑑賞の能力)
- (3) 準備物 生徒：美術セット、筆記用具  
教師：屏風、ワークシート、金箔、金箔を貼ったパネル、箔ばさみ、岩絵の具、墨、白麻紙
- (4) 学習の展開

|                       | 学 習 活 動  | 指導上の留意事項   | 評価規準<br>(評価方法)  |
|-----------------------|--|--|---|
| 導<br>入<br>5<br>分      | (1) 本時の目標・内容を<br>知る。   | ①前時の内容を想起し、<br>本時の目標を確認する。<br>・復習を行う（日本の美術文化の独自性を特徴付ける意見を<br>紹介する）。  |   |
| 展<br>開<br>40<br>分     | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">造形的な要素に着目して、日本の美術のよさや独自性を味わおう。</div> (2) 尾形光琳「紅白梅図屏風」を鑑賞する。<br>○感じたことや考えたことを自由に記録する。<br><br>○造形的な要素に着目させる活動を行う。 | ②作品を鑑賞して考えさせる。<br><br>○第一印象を大切にさせ、気付いたこと感じたことなど自分なりの思いをワークシートに書かせる。(印象)<br><br>○何が描かれているか書き出す。(観察)<br>・描かれているものを使い画面の説明をする。<br><br>○造形的な要素に着目させ、分析的に観察させた後、班で話し合ったことを発表させる。<br>同時に体験活動を行う。<br>(個人→班→全体)<br><b>形</b> 1 屏風仕立て、折り曲げると見え方が変わる、鑑賞するときの位置（目線）<br>2 形式化された梅、装飾的な流水文、<br>3 対比若木と老木の対比、空間の視点（川と梅の関係）<br><br><b>色彩</b> 1 対比赤と白、（色数が少ない）<br>2 金地の表現（調査結果）<br>3 にじみ没骨法+たらし込み（墨と白緑で描いてみる）<br>(材料は色と重なる部分がある)<br><br><b>材料</b> 1 金箔・金泥（金箔を触ってみる）<br>2 岩絵の具・膠（岩絵の具を触ってみる、日本画の表面を触ってみる）<br>3 墨 | 造形的な要素に着目して、日本の美術文化の独自性に気付いている。(鑑)<br>【生徒の発言】<br>【ワークシート】 |
| ま<br>と<br>め<br>5<br>分 | (3) 本時のまとめを自己評価カードに記入する。   | ③今日の授業を振り返り自己評価カードに記入する。<br>・次時の予告をする。   |   |

【第二次②】

- (1) 本時の目標：視点をもって日本の美術作品を味わい、日本の美術文化の素晴らしさに感動と好感の気持ちをもつことができる。
- (2) 観点別評価規準：日本の美術文化に対して、よきものとして愛着をもっている。(鑑賞の能力)
- (3) 準備物 生徒：美術セット、筆記用具  
教師：屏風、ワークシート、画用紙、水流の写真、色鉛筆
- (4) 学習の展開

|                        | 学 習 活 動   | 指導上の留意事項  | 評価規準<br>(評価方法)   |
|------------------------|---|---|--|
| 導<br>入<br>5<br>分       | (1)本時の目標・内容を知る。   | ①前時の内容を想起し、本時の目標を確認する。  |  |
| 展<br>開<br>30<br>分      | <p>造形的な要素に着目して、日本の美術よさや独自性を味わい愛着をもとう。</p> <p>(2)尾形光琳「紅白梅 図屏風」を鑑賞する。</p> <p>○作品の作られた背景を知る。</p> <p>○光琳のデザイン性に気付く。</p> <p>○再び鑑賞する。</p> | <p>②作品を鑑賞して考える。</p> <p>○作品の背景についての知識を与えることにより、深く鑑賞できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・尾形光琳の生涯（略年表で簡単に）</li> <li>・光琳の生きた時代（江戸中期）</li> <li>・林和靖の「山園小梅」からの着想（世界観）</li> <li>・琳派のスタイル（デザインの的）</li> </ul> <p>○光琳の技法を体験させるため、形のない水を表現させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・とらえどころのない水を表現し、光琳の意匠の感覚を味わわせるようにする。</li> </ul> <p>（画用紙：はがき大、鉛筆、色鉛筆などで表現）</p> <p>○今までの授業を振り返り、改めて作品を鑑賞して気付いたことや感想を書く。</p> | 日本の美術文化に対して、よきものとして愛着をもっている。(鑑)<br>【生徒の発言】<br>【ワークシート】 |
| ま<br>と<br>め<br>15<br>分 | <p>(3)本時のまとめを自己評価カードに記入する。</p> <p>○ポスト鑑賞をする。</p>  | <p>③今日の授業の感想を自己評価カードに記入する。</p> <p>○光琳「燕子花図屏風」を見て気付いたことや感想を書く。</p>   |  |